

夏の恒例行事として定着している数々の花火大会や今夏 100周年を迎えた全国高校野球等を期に一年の振り返りとして今年も後半戦、季節を先駆けての様々な祭事が予定されていると想います。

あまりの暑さを経験した今年の夏は、夜空に煌く花火の美しさや迫力を存分に体感させてくれて市場を潤し、これから冬に向けてはLEDイルミネーションで彩られた都会の宝石箱へと移行しながら、再び高揚を誘い、市場に活力を与える事でしょう。

そうした伝統や文化を意識し継承する想いと、その手法や表現方法に様々な工夫やアイデアを反映させて、少しずつ時代は進化していく物だと私は想います。

戦後、焼野原となりましたこの日本橋は、商人や職人が集う商業地区として発展し続けている今日があるのは、先人達の必死の努力に支えられてきた歴史を謙虚に学ぶ事と、進化する過程に於いて台頭してきたサブカルチャーがもたらしてきた経済効果もまた、決して無視出来ない事実であります。

長年、呉服の卸売業が意匠表現を追及するビジネスとして今日まで成り立っているのは、『平和』の象徴として、『和の文化』を啓蒙し、女性の心に寄り添ってきた事に他なりません。

近年、女性の社会進出に大いに貢献してきたアパレル・ファッション産業がそのマーケットの個性化を成就させて参りました。さて、花火大会等の夏の集いに欠かせないのが『ゆかた』であります。

江戸時代からリラックスウエアとして慎ましく存在してきた『浴衣』が、夕涼みの定番から夏のライフスタイルの一つとして注目されながら、トータルコーディネートされたその姿をテレビで頻繁に目にする様になった今日、まさにその進化を感じております。

120年の歴史を持つアメリカ生まれのジーンズが今、世界の日常着として定着しているのに並び、『ゆかた』も夏の心と体を解放する素晴らしい特徴を持つウエアとして、2020年を基として世界の衣服として素材、カラー、デザイン、着こなし術等に新たに工夫を加えて『YUKATA』としてアピールしていきたいと考えておりますが、組合員の皆さまいかがでしょうか。

是非ご意見を聞かせてください。